

令和4（2022）年度 放課後活動指導者研修 実施報告⑤

実施日：令和4（2022）年9月21日（水）

今回は、「よりよい放課後活動を目指して」と題して、事例発表と講話を実施しました。事例発表では、県内の先進事例から実際の活動を行う際の工夫について学び、講話では、体験活動を行う際のポイントや体験活動のプログラムづくりのポイントについて学びました。

○ 事例発表「那須町アナザースクールの取組」

那須町教育委員会事務局 生涯学習課社会教育主事兼学校教育課指導主事 大森 誠 氏

「那須町アナザースクール」の取組について紹介されました。那須町ではボランティアの協力により、百人一首やマーブル染めなどが行われているそうです。その中で、初めは参加者として活動していたが、活動の面白さに気づき、指導する側に回ったという方や、大学で学んでいることを子どもたちにも伝えたい方など、アナザースクールが大人の学びのアウトプットの場になっていることなどを話されました。

また、放課後児童クラブにおいて児童にアナザースクールのチラシを配布したり、参加者の団体申込みを行ってもらったりするなど、学童保育との連携の工夫についても紹介がありました。受講者は、現在自身が関わっている取組を振り返り、より活動を充実させるためのヒントを得ることができた様子でした。



○ 講話「よりよい放課後活動を目指して」

作新学院大学女子短期大学部 幼児教育科長・教授 青木 章彦 氏

最初に、「体験活動」について説明がありました。体験活動はただ体験をすればよいのではなく、子どもたちに何を学ばせたいのかを考え、そのために周りの大人が意図的に・計画的に提供するものであると説明がありました。また、体験には自然体験や、文化的な体験、歴史的な体験などがあり、その地域に応じた豊かな体験を行うことができると話されました。

次に、御自身が携わっている渡良瀬遊水地での活動を例に、ねらいを明確にしたプログラムづくりや、「ねらい→展開→ふりかえり」の手順を意識した組み立て方など、体験活動のプログラムづくりを具体的に示されました。受講者は今後自分が活動を行っている地域ならではのプログラムを作成・実施することに意欲を高めることができた様子でした。



★★★ 受講者の声 ★★★

- コロナ禍によって、子どもたちの失われた時間、空間、仲間づくりをいろいろな体験をとおして学ばせることが大切であると改めて感じた。
- プログラム作成というとなんとなく難しいと考えていたが、自分の体験を元にすればできそうと感じた。
- 体験活動そのものが目的ではなく、そこから何を学ぶか目的を明確にすることが重要であることを学んだ。
- 「地域の資源は人だけではない」という話になるほどと思った。体験活動と聞くと、講師がいて専門知識が必要だというものを想像していたが、子どもが持ってきた虫の名前を一緒に調べて観察するとかも体験として子どもの中に残ると思った。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL: 028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp